

「先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業」 年間指導計画 いわき市立郷ヶ丘小学校

課題・テーマ	風車のある学校からみえる再生可能エネルギー ～ Think Globally , Act Locally ～							
作成推進校	いわき市立郷ヶ丘小学校							
対象児童・生徒	全学年児童 535名							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生活科								つくってあそぼ う (1年) うごくうごくわ たしのおもちや (2年)
理科		電気のは たらき (4年)				太陽の光を調べよう (3年)	風やゴムで動かそ う (3年)	
社会科					南部清掃センター見学(4年) ごみの処理と利用 (4年) 日産自動車いわき工場見学 (5年)			
総合的な学習の 時間	岩手大学 エネルギー出前講 座 (6年)				アグリパークいわき・いわき 市フラワーセンター見学 (5年) 常磐共同火力勿来発電所見学 (5年) コミュタン福島見学 (6年)	福島空港メガソーラー 見学 (6年) 壁新聞作り (6年)	ふくしま教育週間 における授業公開 (6年) いわき明星大学エ ネルギー出前講座 (5年) 環境について考え よう (5年) 考えようこれから のエネルギー (6年)	

「先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業」 実践成果 いわき市立郷ヶ丘小学校

<p>生活科</p>	<p>第1学年は、「おもちゃづくり」の学習の中で、画用紙でつくる紙トンボは、どのように羽を折ったらきれいに回るのか実践していく中で考えることができた。また、画用紙でつくるこま作りでも羽の部分の折り方、軸の長さなどを楽しみながら考えることができた。2年生のおまつりに招待され、クラスのお楽しみ会でも「びょううさぎ」を作って大会をしたいという意見が出て、「びょううさぎ」を作った。楽しみながらゴムの働きについても考えていた。</p> <p>第2学年は、「うごくうごくわたしのおもちゃ」の学習の中で、風で動くヨットカーやゴムの力で動くびょううさぎやとことこがめ等で自然の力を生かして様々な動きをするおもちゃを作った。上手に動かすには、どのようにしたらよいか何度も試しながら、みんなで楽しく作ることができた。また、空飛ぶ種の模型作りも行った。1年生の国語科で学習した「タンポポのちえ」を振り返り、いろいろな種が仲間を増やすためにどんな工夫をしているのか、どんな飛び方をするのかを模型を作って実験した。種の形から、どんな動きをするのかを予想し、実際に模型を作って飛ばして観察をした。アルソミトラと翼果、ツクバネの3つを作り、その動きを調べた。種の形によりいろいろな動きがあることを知り、楽しく活動することができた。</p>
<p>理科</p>	<p>第3学年は、「太陽の光を調べよう」の学習の中では、鏡で日光を集めてあたたかさや明るさを感じる実験を行い、太陽熱について知ることができた。また、「風やゴムで動かそう」の学習では、送風機と実験用の車を使っての実験で風力を可視化し、その力を具体的に知ることができた。</p>
<p>社会科</p>	<p>第4学年は、「ごみの処理と利用」の学習の中で、ごみの利用法の1つとして市内の南部清掃センターで行われている廃棄物発電について見学を通して学ぶことができた。学習を通して、ごみも資源となり有効活用できることや、地球の環境を守るために他にも様々な発電方法があることを知り、関心を持つきっかけとなった。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>第5学年は、資料や外部講師の授業から、地球温暖化の現状を知り、温暖化を防止するためには地球にやさしいエネルギーや、生活の見直しが必要なことを考えさせた。そして、今後社会が取り組まなくてはならないエネルギーの転換について調べようとする意識を高めるために、市内にある風力発電や火力発電を見学し、その仕組みや取り組みについて知ることができた。</p> <p>第6学年は、5学年で調べ学習を行った再生可能エネルギーのそれぞれの特徴を復習し、新たに調べたい課題を自分たちで設定し、エネルギー自給率やエネルギーの奪い合いから起こった戦争についてなど、9つの課題に分かれて調べ学習を行った。学んだことの表現の場の1つとして壁新聞づくりに取り組み、コンクールに応募するなど積極的な情報発信に努めた。また、体験したことや調べたことを根拠として、これからのエネルギーの利用に関する自分なりの考えをもち、友だちと話し合うことで自分の考えを広げることができた。</p>